

A-33 食品の嗜好について 報 年令および性別の嗜好尺度について
帯廣大谷短大 ○山下 BB 池添博彦

目的 食品の質を向上させ、美味でより多くの人に好まれる食品をつくるためにも食品についての嗜好を知る必要が生ずる。われわれは、食品の材料にかなりのウエイトを置いて、食品の嗜好に關する調査を行なつてみたので、その結果を報告する。

方法 9点法の嗜好尺度を用い、記名アンケートにより15項目、185種の食品について好き、嫌いの度合を調べた。対象は、北海道帯廣近郊に在住してゐる10代から560代までの男性104名、女性166名計270名である。対象を性別および年代別に10群に分け、それらについて個々の食品、各項目および全体の平均と標準偏差を求めた。また、男性と女性および各年代別に集計して、前記の数値を求め、男女間および年代別間のスピアマン順位相関係数を算出して、嗜好尺度の類似性を検討した。

結果 アンケートに記載された185種の食品に対する対象全体の嗜好尺度は、平均値3.97±1.40となり“おこしおき”の区分に相当した。年代別の平均値はどれもほぼ同様であった。嗜好の性別および年代別間の相関係数を求めた処、男性と女性の嗜好は年令の若いものの間では小さく、年令が増すと相関の度合は大きくなった。また年代別間では、年令の差が大きければその程、相関は少く、差が小さくなるに従つて相関の度合は大きくなることが解つた。